

技術科教育におけるキャリア教育の在り方に関する研究 ーグループ学習を通しての、人間関係形成能力の伸長ー

教職大学院応用領域 授業づくり履修モデル
杉山英夫

1. はじめに

現在日本では少子高齢化社会の到来や、産業・経済の構造的変化、雇用の多様化・流動化等が進んでいる。就職・進学を問わず、子どもたちの進路や生き方を巡る環境は大きく変化している。また、教育を取り巻く環境も大きく変化しており、これからの社会と教育の動向を考えれば、様々な問題が生まれてくることは容易に想像できる。

そのような中で、子どもたちが「生きる力」を身に付け、社会の激しい変化に流されることなく、それぞれが直面するであろう様々な課題に、柔軟かつたくましく対応し、自立していく力を身に付けることが求められている。その力を育むためには、キャリア教育が大きな一助となると考えられる。

2. 実践研究主題の設定と経緯

2.1 キャリア教育に着目した理由

生徒が学ぶ技術科教育の素養は、勤労観・職業観をはじめとして、キャリア教育で身に付ける能力と密接につながっている。

例えば、一昨年度に技術・家庭科2年生の技術分野「技術とものづくり」で、勤労観・職業観を育むための授業を行った。授業後のアンケートから、生徒に次のことを意識付けることができたことが分かる。「ものづくりには時間と労力が必要で、汚れや騒音などの人が嫌がるのがつきまとうが、できあがった時には成就感・達成感があること」、「授業を通して学んだことは、産業（ものづくり）に関係し、働くことの大変さや大切さに気付くことができたこと」などである。

キャリア教育に関する記述は、新学習指導要領のどの教科・領域にもあるが、系統立てられた学習内容としては述べられていない。そこで、技術科教育において効果的にキャリア教育を行う方法を追究したいと考えた。

2.2 具体的なカリキュラムが存在しない「キャリア教育」

キャリア教育は「毎日、一定の集団・社会の中で生活する中で、様々な人・もの・ことや情報と関わっていく中で行われるもの」である。つまり、多様なフィールド（日常生活、教育現場）全てがキャリア教育の場となりうる。しかし、今回の研究という観点からは、教育現場（技術科教育の授業）に焦点

をあてる必要がある。

各教科の目標はそれぞれに特徴をもっているが、図1に示すように、技術科教育ほどキャリア発達の寄与に特化したものはないと考えられる。

技術科教育はものづくりの実践的・体験的な学習活動を通して、勤労観・職業観などを育むことに適しているため、技術科教育とキャリア教育を結びつける授業の重要性が見えてくる。そこで、キャリア教育を技術科教育で行えるように、新しい発想のカリキュラムを編成することを考えた。

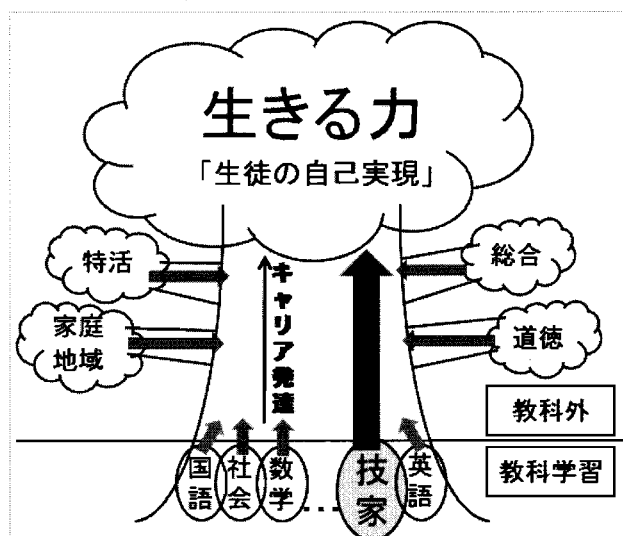


図1 多様なフィールドとキャリア発達の関わり

3. これまでの研究経過とのかかわり

3.1 既往の研究

木製品製作において、勤労観・職業観を育むための授業を行った。授業時間内は、勤労観・職業観が身に付いたと思われたが、1か月も経過するとその意識は減衰していった。そのため、3年間のカリキュラムを編成し、系統だった授業を取り組むことが必要であるという結論に至った。

この授業を通して、勤労観・職業観だけにとどまらず、キャリア教育全般に関わる研究の必要性を意識し、本研究に取り組むこととなった。

3.2 技術科教育におけるキャリア教育に関する研究

技術科教育の目標とキャリア教育の定義を比較すると、共通する部分が多々あることが分かる。技術科教育とキャリア教育の互いのよさを融合させれば、教育効果の高い授業が実現できると考えられる。

しかし、キャリア教育と技術科教育を結びつけた研究は、まだ論文としても書籍としてもあまり発表されていない。そこで、本研究がその先進的な取り組みとなるように考えている。

3.3 他の教育研究

河崎智恵氏は、「家庭科におけるキャリア教育の開発に関する研究」と称して、「家庭科の在り方をキャリア教育の観点から吟味して、家庭科におけるキャリア教育の理論と方法について考察し、プログラムを開発することを目的としている。具体的には、家庭科におけるキャリア教育の意義と在り方を検討して、家庭科におけるキャリア教育モデルを構築し、高等学校で実施可能なプログラムを開発することを旨とする。」と述べている。

河崎氏の論点は、私の目指すものと合致しており、研究の参考になると考える。ただし、高等学校教育と中学校教育は異なるものであり、技術科と家庭科の特性の違いを理解した上で研究を進めねばならない。

4. 実践研究の概要

4.1 現任校の生徒の実態

私の勤務校では、対人暴力や器物破損などの問題行動・怠学傾向の強い生徒による授業妨害・不登校生徒の増加など、多くの問題を抱えている。また、卒業生の進路後の報告を聞くと、上級学校進学後の退学や、就職決定後の早期退職、フリーターやニートの多さに驚かされる。これらのことは、在校生・卒業生ともに、キャリア発達が不十分であることを意味すると考える。そのため、キャリア教育による子どもたちのキャリア発達を促す必要があると考えた。

4.2 技術科教育とキャリア教育との結びつき

技術科教育とキャリア教育との結びつきを、図2に示す。技術科教育では、技術的素養を育むために、技術科教育のカリキュラムが編成されており、AからDの4つの内容を行う。技術的素養を身に付けることは、キャリア発達に関わる諸能力全てを身に付けることにつながり、キャリア教育を技術科教育で行うことができるということを示している。

キャリア教育は学習指導要領に述べられてはいるものの、具体的な手だてやカリキュラムについては言及されていない。しかし、技術科教育を行うことで、キャリア教育の目的を満たすことが可能であると分かった。その方法について追究していきたい。

4.3 キャリア教育における「人間関係形成能力」の伸長

キャリア教育で育まれる能力は、4領域8能力である。本研究ではその中の1領域である「人間関係形成能力」に焦点をあてたいと考えている。近年、「人間関係から生じる問題」が社会的な問題となっており、教育現場でも深刻な問題となっているからである。

キャリア教育における人間関係形成能力は、技術科教育の「ものづくり」の場において特に培うことができると考える。それは、授業において共同作業を行う場面を設定しやすく、人間関係形成能力の目標である、自己や他者の良さに気付き合いながら、コミュニケーションスキルの向上を図ることができるからである。

そのための共同作業による授業形態をグループ学習と呼び、効果的な学習方法や題材を追究・検証していく。

4.4 人間関係形成能力とグループ学習との関わり

技術科の授業は、学習内容や時間数の制限などの

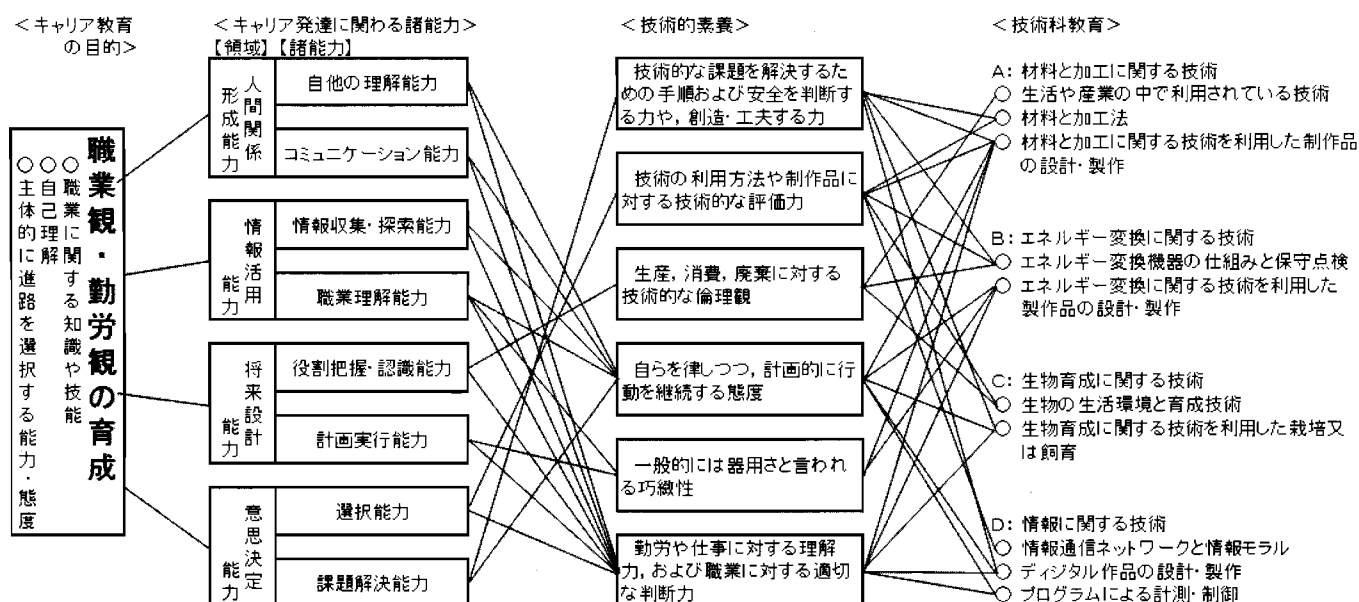


図2 技術科教育とキャリア教育との結びつき

面から、「技術の伝達」「知識の伝達」という授業になりがちである。

作品の製作などの実習の場面においても、1つの作業机に数名の生徒が座って作業を行う場面はあるが、同じ場で作業を行うだけであることが多い。

そこで、グループ学習を行うことによって、技術科教育の学習内容に、キャリア教育の視点において伸長できる力をプラスすることができる。

特に人間関係形成能力は、グループ学習によって効果的に伸長できるものと考えられる。人間関係形成能力で期待される能力であるコミュニケーションスキルや、自己及び他者理解の姿勢、自己及び他者の役割を理解しながら活動する態度などは、グループ学習で取り組む内容に合致する。

表1で示すように、人間形成能力の伸長とグループ学習には大きな関わりがあるため、技術科教育の学習形態にグループ学習を取り入れることは、教育効果を増大するであろうことが期待できる。

表1 人間関係形成能力とグループ学習との関わり

人間関係形成能力で伸長する生徒の姿・力	グループ学習を通して得られるもの
○ 自分の良さや個性が分かり、他者の良さや感情を理解し、尊重する姿勢。	○ 問題の解決にふさわしい集団をつくり出す姿。 (コミュニケーションの大切さ)
○ 自分の言動が相手や他者に及ぼす影響が分かる気持ち。	○ 集団帰属による安定感。 (共に活動することの心強さ)
○ 他者に配慮しながら、積極的に人間関係を築こうとする姿勢。	○ 社会的行動の学習の機会。 (共同・協力する作業の経験)
○ 人間関係の大切さを理解した、コミュニケーションスキルの基礎。	○ 個人ではできないことを協力して達成する経験。 (互助と他者とのかかわりの大切さ)
○ リーダーとフォロワーの立場を理解し、チームを組んで互いに支え合う姿勢。	

5. 実践研究の構想と方法

5.1 研究のねらい

技術科教育において、キャリア教育で育むことができる能力(4領域8能力)の発達を促す。その手段として、技術科教育とキャリア教育を結びつける授業の在り方を追究する。特に、人間関係形成能力に着目し、グループ学習を取り入れた授業を展開し、その教育効果を検証することをねらいとする。

5.2 仮説と手立て

研究主題である、「技術科教育におけるキャリア教育の在り方ーグループ学習を通しての、人間関係形成能力の伸長ー」について、研究仮説と手立てを以下のように考える。

【仮説】

共同作業を通し、コミュニケーションの場を設定することで、人間関係形成能力の伸長を図ることができる。グループ学習を中心に授業を展開することで、高い効果が得られる。

【手立て】

「話し合い活動の充実」、「協力し協同作業を行う活動の展開」によって、コミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組むための授業を行う。

5.3 研究の構想

本研究では、技術科教育において、キャリア教育における人間関係形成能力の伸長を目指す手立てを講じていきたい。

育成したい生徒像と研究実践との関係を表した構想図(図3)と、人間関係形成能力を育成する基本的な考え方を、以下に示す。

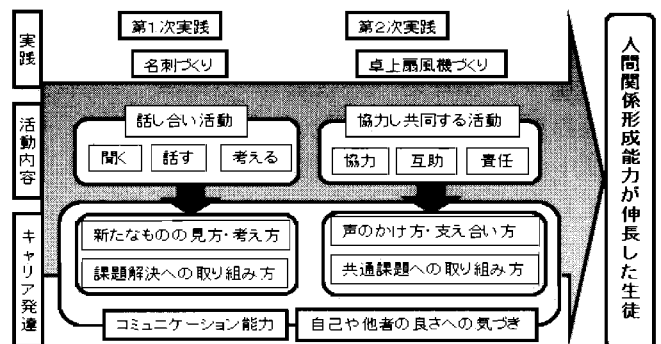


図3 研究の構想図

【手だて1】 話し合い活動によるキャリア発達の支援

グループによる話し合い活動の場を設定し、自分の考えを公表し、他の意見を聞くことにより、自己と他者の違いを知ることを行いたいとする。

コミュニケーションを通して話す・聞く・考えることにより、新たなものの見方や考え方を芽生えさせ、自己の個性に気付くこと、他者の良さに気付き尊重する姿勢の形成を目指す。

【手だて2】 協力し共同作業を行う活動を通じたキャリア発達の支援

協力してグループで活動する共同の場を設定し、互いに助け合いながらよりよく活動に取り組むことをねらいとする。

班内で役割分担をし、声をかけ合い、互いに支え合い助け合いながら作業をする場をもつことにより、コミュニケーション能力を高め、自己理解・他者理解を深めることを目指す。

5.4 人間関係形成能力の発達を計る観点

本研究では、「技術科教育とキャリア教育とが結びついたか」を検証しなければならない。それを検証するための方法として、「生徒に人間関係形成能力が身に付いたか」を測る必要がある。そのための評価の観点と項目を、表2にあげる。

表2 人間関係形成能力の発達を測る観点

人間関係形成能力の発達を計る観点	評価項目
○ 自分の良さや個性が分かり、他者の良さや感情を理解し、尊重することができたか。 ○ 自分の言動が相手や他者に及ぼす影響が分かったか。 ○ 他者に配慮しながら、積極的に人間関係を築こうとしたか。 ○ 人間関係の大切さを理解し、コミュニケーションスキルの基礎を習得できたか。 ○ リーダーとフォロワーの立場を理解し、チームを組んで互いに支え合いながら活動をしたか。	○ 話し合いに参加できたか ・ 積極性(関心・意欲・態度) ・ 話し方(声の高低や速度など) ○ お互いの考えを尊重できたか ・ 自己理解(自己肯定感・有用感) ・ 他者理解(観察力・分析力) ○ 相手を思いやった言動がとれたか ・ 話し方や行動(配慮・思いやり) ○ 共同作業の意義が理解できたか ・ 助け合い(互助の精神と感謝) ・ 役割分担(チームワーク)

6. 実践研究の記録1「名刺づくり」

本研究における実践内容を、以下に述べる。
 第1次実践は、第2学年280名を対象に、平成22年4月より実施した。

6.1 単元

D:情報に関する技術(画像処理ソフトウェアの活用)

6.2 目標

<技術科教育としての観点>

ソフトウェアの機能を活用する力を身に付け、自分の望む作品を作成することができるようにするとともに、情報の適切な取り扱い方を考えることができる。

- 図形処理ソフトウェアの機能に関心をもち、活用しようとする。
- 相手に自分の情報がよりよく伝わるように、情報を取捨選択することができる。
- 自分がイメージ(計画)したとおりに、情報を加工することができる。
- 個人情報について、その重要性や取り扱いについての長所・短所を説明することができる。

<キャリア教育としての観点>

他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組むことができる。

- 話し合いの場では、自己の考えを伝えるとともに、他者の意見を聞くことができる。
- 自己と他者の違いを知り、それぞれに個性があることに気付き、尊重することができる。
- 協力・共同することを通し、よりよい人間関係を築き、作業することができる。

6.3 指導計画(7時間完了)

上記の目標を達成させるため、表3に示す指導計画を立てて授業に当たった。

表3 「名刺づくり」の指導計画

学習内容	時数	学習形態
①名刺の役割を考える	1	グループ学習
②名刺の下書きをつくる	1	グループ学習
③名刺の作成1	2	個人
④アドバイス活動	1	少人数(2・3名)
⑤名刺の作成2(改善)	1	個人
⑥名刺の印刷・振り返り	1	グループ学習

6.4 授業の様子

グループ学習において、自分の考えを発表し、他の意見を聞き、新たな価値や考えを形成するための、話し合いの場を設定した。

その話し合いによって、コミュニケーション能力の伸長と、自己・他者の違いを理解し、互いを尊重する姿勢を身に付けることができた。

具体的な話し合い活動の様子を、図4に示す。これは授業内容①の名刺の役割を考える場面である。

話し合いの様子	
T:教師の発言・指導, C:生徒の発言・活動	
学習形態:グループ学習(各班4・5名,8班編制)	
役割分担:司会者,記録係,発表者(全体への発表)	
T1	大人の名刺と、中学生の名刺では、役割が異なります。中学生にとっての名刺の役割を、グループで話し合ってみよう。
Ca1 (司会)	Cbくん、自分の考えを発表してください。
Cb2	ぼくは、新しく友だちをつくるためのものだと思います。名刺を渡せば、自分のことをすぐに知ってもらえると思うから。
Ca3	Ccさん、自分の考えを発表してください。
Cc4	わたしは親しい友だちに、より詳しくわたしを知ってもらうために渡したいと思いました。
Ca5	Cdさんはどう考えましたか。
Cd6	今考え中です。思い浮かんだら発表します。
Ca7	では、ぼくが発表します。ぼくは、お互いの仲をふかめるためのものだと思います。もらった人は、自分に興味や好意を感じてくれると思うし、うれしく思うんじゃないかと思います。
Ca8	Cdさんは考えがまとまりましたか。
Cd9	思い浮かばなかったので、次に進んでください。
Ca10	では、今の意見の中から、一番よいと思ったものは何ですか。Cbくん、教えてください。
Cb11	Caくんの考えがいいと思います。ぼくやCcさんの考えも含まれているから。
Cc12	話を聞いてて、名刺をもらうことで、改めて友だちだなんて感じるようになるかもしれないって思いました。
Cd13	わたしもみんなの考えに賛成です。
Ca14	では、この班のまとめは、名刺はお互いの仲をふかめるためのものにします。いいですか。
C15	(全員)はい。
Ca16	Cdさん、ホワイトボードに記入してください。Cbくん、班の発表よろしくね。
T2	では、それぞれの班の発表をしてもらいます。1班から。
C17	1班では、知らない人に自分を知ってもらうためのものと考えました。
T3	なるほどね。2班はどうですか。 ※各班の発表が続く。

図4 話し合い活動の様子

これまでの授業では、生徒は互いの考えをまとめるための話し合いをする経験をあまり積んでいなかった。そのため、グループでの話し合いの場では、何を話していいのか分からず、おしゃべりをするだけになってしまったり、話し合いに参加しようとしなかったりする生徒が多かった。

それを改善し、話し合いの手法を身に付けさせるために、図5のようなカードを準備した。それによって、話し合いの進行はスムーズに行うことができるようになった。また、この他の場面でも同様に話し合い活動を行ったが、順調に話し合い活動を行うことができた。

これらの活動を通して、コミュニケーション能力が高まり、自分の考えを話し、他者の考えを聞き、

新たな考えをもつことができました。そして、自己や他者の良さを知り、尊重する姿勢が身に付いていった。

<話し合いのまわし方>

◎場面 「名刺の役割を考える」

役	司会者…班員に意見を発表させ、とりまとめる
割	記録係…ホワイトボードに班のまとめを記入する
分	発表者…先生に指名されたときに、ホワイトボードの内容を読む
担	全 員…自分考えをグループの話し合いの場で発表する

話し合いの進め方

①司会：自分の左隣の人を指名して、
「〇〇くん・さん、名刺の役割について、自分の考えを発表してください」
左隣：「〇〇だと思います」または、「まだ考え中です。あとで発表します」
司会：時計回りに、次の左隣に順番に発表させる。最後に自分の考えを発表する。

②司会：「発表の中で、一番いいと思った意見はありませんか？」
→左隣から順に答えさせる。

司会：「みんなの意見を聞いて〇〇が良いと思います。それでいいですか？」
A→〇Kなら、ホワイトボードに記入させる。
B→反対意見が出たら、その理由を聞き、再度班員にたずねる。
→〇Kなら、ホワイトボードに記入させる。

図5 話し合いのまわし方カード

6.5 実践研究1における手だての検証

授業を通して、コミュニケーション能力が伸長したことがつかめた。

話し合い活動を通して、話す・聞く・考えることで、新たなものの見方や考え方を芽生えさせ、自己の個性に気付くこと、他者の良さに気付き尊重する姿勢が形成できたと考える。

図6の生徒の名刺の変化と、生徒の感想をもとに手立てが有効であったか検証していく。

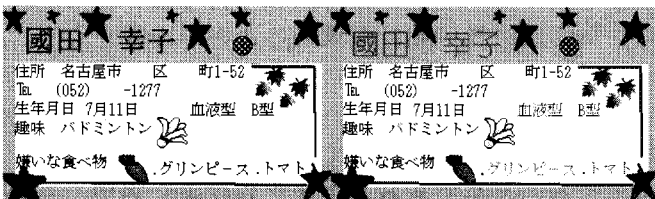


図6 左：アドバイス前、右：アドバイス後
(名刺内の名前は仮称である)

この作品をつくった生徒は、級友から「フォントを変えたら?」、「字の色を変えるといいかも」とアドバイス活動で助言をもらった。文中の図では、色の変化は見づらいが、フォントが変更されているのが確認できる。この生徒は、次のように感想を残している。

他の人の意見が、アドバイスを聞いてよかった、おかげでいい作品ができたと思います。書体も変えることでより強弱がわかり、デザインもよくなりました。みんなに褒められると思います。

この生徒だけではなく、多くの生徒が作品を改善し満足いく作品をつくることができました。

話し合いの中から、相手からもらったアドバイス通りに直すのではなく、自分の考え(価値)を大切にしながら、よりよいものをつくりあげる力を身に付けることができたと言える。

また、生徒の感想から次のような考えを知ることができた。

【話し合い活動についての感想】

自分の気づかなかった点を話し合いで気づけるところが良いと思います。自分の意見が積極的に表れると思います。

【アドバイス活動についての感想】

お互い(他人)の良い所を見つけあったり、アドバイスをしたりと自分の意見を相手に伝えて楽しく話せる機会がふえたことが良かったです。

【全体を通しての感想】

いろんな意見が聞けて、自分の気づかなかったこともめめめめし、参考に(作品)になりました。意見をきくことで、より良い作品にすることができました。今後も話し合い、アドバイスを聞いたりしていきたいです。

これらの感想から、人間関係形成能力を伸長するために、話し合い活動は有効であったと考える。

7. 実践研究の記録2「卓上扇風機づくり」

第2次実践の内容を、以下に述べる。第2学年280名を対象に、平成22年9月より実施した。

7.1 単元

B：エネルギー変換に関する技術(エネルギー変換に関する技術を利用した製作品の設計・製作)

7.2 目標

<技術科教育としての観点>

電気教材「卓上扇風機」の製作を通して、電気を変換する電気機器のしくみを知り、製作に関わる知識・技能を身に付ける。

- 教材の製作について興味・関心を示し、進んで製作に取り組む。
- 電気機器のしくみについての知識を身に付ける。
- 教材製作に必要な技能を身に付ける。
- 教材製作をよりよく進めるための工夫を考える。
- 製作した教材が、よりよく動作するための工夫を考える。

<キャリア教育としての観点>

他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組むことができる。

- 話し合いの場では、自己の考えを伝えるとともに、他者の意見を聞くことができる。
- 自己と他者の違いを知り、それぞれに個性があることに気づき、尊重することができる。
- 協力・共同することを通し、よりよい人間関係を築き、作業することができる。

7.3 指導計画(12時間完了)

上記の目標を達成させるため、表4に示す指導計画を立てて授業に当たった。

表4 「卓上扇風機づくり」の指導計画

学習内容	時数	学習形態
①部品加工	3	グループ学習
②電気回路の半田付け	2	グループ学習
③リンク機構の組み立て	2	グループ学習
④プロペラの作成	1	グループ学習
⑤全体の組み立て	2	グループ学習
⑥作品の改善	1	グループ学習
⑦学習の振り返り	1	グループ学習

7.4 授業の様子

この実践では、1グループ4・5人でのグループ学習を行った。授業の流れの中で役割分担を守ることや、声かけ活動を励行した。誰もがどの班員に対しても、1日1回は声をかける機会をつくった。

この授業によって、コミュニケーション能力の伸長が見られた。また、互いに助け合い支え合う姿勢が身に付けられた。

これまでの授業では、生徒は一緒に活動している班員を、「同じ作業机に座って活動をしているだけの人」と捉えていた。そこで、互いに積極的に話し、関わりがもてるようにするために、役割分担を徹底させ、声かけ活動をするようにした。具体的な例を図6に示す。

声かけが形式だけにならないように、思いやりや感謝の気持ちが伝わるように話させた。また、渡すときに投げたりひったくように受け取ったりすると、相手に不快感を与えることなども教えた。そして、授業を重ねるうちに、自然に「ありがとう」や、「手伝おうか?」という声かけが出るようになった。

<p>関わりを大切に声かけ活動 T: 教師の発言・指導, C: 生徒の発言・活動 学習形態: グループ学習(各班4・5名, 8班編制) 役割分担: 班長, 道具係, 材料係, TA(技術サポート), 掃除係</p>
<p>【授業開始時】 T1 班長さん、忘れ物チェック後、点呼報告をしてください。 C長1 忘れ物がありますか。Aくんから順に教えてください。 Ca2 ありません。 Cb3 教科書を忘れました。 Cc4 ないです。 T2 点呼報告。1班はどうですか。 C長5 1班はCdさんが欠席です。忘れ物チェック終わりました。</p>
<p>【道具準備・材料準備】 C道1 Caさん、どうぞ。 Ca2 ありがとう。 C材3 Caさん、もってきたよ。 Ca4 ありがとうね。</p>
<p>【道具片付け・材料片付け】 Cb1 道具係さん、これお願いね。材料係さん、これお願いします。 C道2 はい。 C材3 いいよ。</p>
<p>【TAの声かけ(作業中)】 Cta1 手伝ってほしいことや困ったことはないですか。 Ca2 今のところ大丈夫。 (困っていたら手助けをお願いします)</p>
<p>【TAの声かけ(作業終了時)】 Cta1 今日の作業進度を教えてください。 Ca2 作業③のpsパイプの切断まで。 Cb3 作業④のスカイバーの切断までだよ。</p>

図6 声かけ活動の具体例

また、作業での手立てを述べる。卓上扇風機づくりは実習である。1つの工作台に、4・5名の生徒の生徒が作業を行う。

卓上扇風機の作業は、1人で行えるものであるが、2人で作業をした方が効率よくきれいにできる作業が多く含まれている。そこで、写真1のように、2人で作業ができるように実習の指示を与えることで、お互いに助け合う場を設定した。



写真1 2人で半田付けをしている場面

協力して作業をすることへの抵抗は、見受けられなかった。声かけ活動を普段から行っていたことから、気軽に班員へ助けを求めることができたようである。

協力して作業を行うことは、他者に感謝する気持ちや、自分が相手にとって支えになっている実感をもたせることができる。生徒たちはよい表情で互いに助け合いながら活動を行い、写真2のように、作品を完成させることができた。

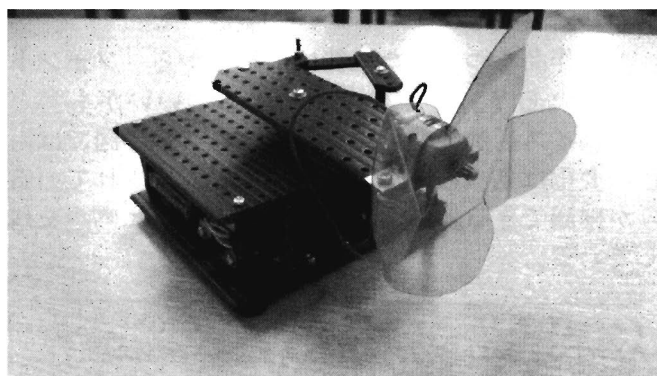


写真2 卓上扇風機の完成写真

7.5 実践研究2における手立ての検証

この実践において、協力してグループで活動する共同の場を設定し、互いに助け合いながらよりよく活動に取り組むことや、班内で役割分担をし、声をかけ合い、互いに支え合い助け合いながら作業をす

る場をもつことによって、コミュニケーション能力を高め、自己理解・他者理解を深めることができたと考える。生徒の感想をもとに手立てが有効であったか検証していく。

【声かけ活動についての感想】

ひかえめな子も意外と積極的に話してくれてよかった。同じグループにはたのびなでよく話していた。共同さどうはみんな意見を述べていきたいと思いました。

班まで揃わなかったら、班が明るくなくて楽しかった。

声かけ活動を行うことで、班内が明るくなり、普段あまりしゃべらない生徒にも話することができるようになったことが感想からつかめた。それだけでなく、これからもその班員とも仲良くしていきたいという気持ちも芽生えさせることができた。

【役割分担と共同作業についての感想】

思った以上にみんなが自分の役割をはたして来てくれたので早く協力してもらえました。

家外、学校でやる事ばかりで楽しくありません。みんなで協力してやる事の大切さを知ることができました。

役割をしっかりと果たすことで、作業がスムーズに行えることや、協力することで楽しく活動できることやその大切さを知ることができた。これらの感想から、人間関係形成能力を伸長するために、声かけ活動や協力して協同する活動は、有効であったと考える。

8. 仮説の検証

8.1 アンケート内容と生徒の変容

授業実践後に、生徒へのアンケートを行った。その設問と回答をグラフ化したものの一部を、図7、図8、図9、図10に示す。

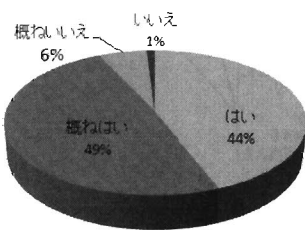


図7 質問「話し合いを通して、自分の考えを深めることができた」の回答

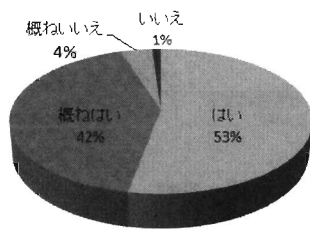


図8 質問「話し合いを通して他者の良さを知らることができた」の回答

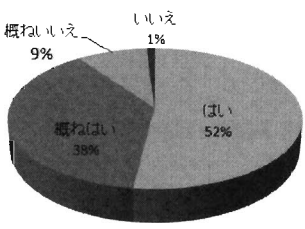


図9 質問「話し合い活動は自分を成長させてくれると思う」の回答

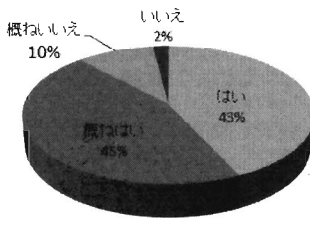


図10 質問「学習内容(グループ学習)に満足している」の回答

また、生徒の行動の変容を、図11、図12、図

13に示す。

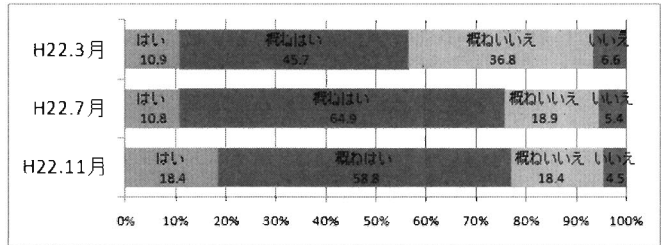


図11 質問「自分の良さや個性が分かり、それを生かしている」の回答

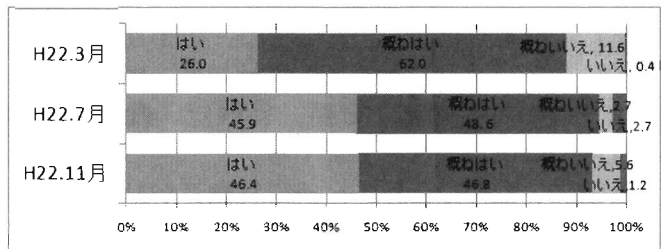


図12 質問「他者の良さが分かり、それを尊重して接している」の回答

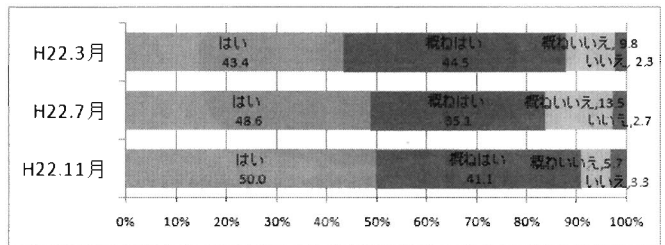


図13 質問「共同活動の場でコミュニケーションをとろうとする」の回答

8.2 考察

図7から10は、授業についての生徒の意識を調査したものの結果である。これらの4項目に対して、「はい」と「概ねはい」の合計がそれぞれ約9割を占めていることから、生徒は授業に対して肯定的にとらえていることが分かった。

図11から13は、生徒の日常生活での行動の変容について調査したものの結果である。

図11の設問「自分の良さや個性を分かり、それを生かしている」については、「はい」と「概ねはい」の合計の割合が、昨年度の3月より約20%増えた。

話し合い活動の中で、自分の考えが認められたこと、共同作業を通して「ありがとう」をたくさん言われるようになり、自己肯定感が高まったことがよい変容につながったと分析した。

図12の設問「他者の良さを分かり、尊重して接している」については、「はい」と「概ねはい」の合計の割合の変化は少ないが、「概ねはい」から「はい」への割合の変化が約20%ある。

日常生活ではあまり話さない他者の考えを、話し合い活動の中で知ることができたことや、共同作業を通して助け合うことで感謝の気持ちを感じられたことが、このような変容につながったと分析できる。

図13の設問「共同活動の場でコミュニケーションをとろうとする」については、グラフに大きな変化は見られず、微増・漸減しただけとなった。しかし、若干「はい」と「概ねはい」の合計が増えている。

7月に「概ねいいえ」と「いいえ」の割合が微増したのは、3月時に共同活動の場でコミュニケーションをとることをあまり意識したことがなかった生徒が、コミュニケーションをとることの難しさを授業を通して認識したためである。

また、授業を重ねていくことで、11月までにコミュニケーションをとることに対して、好感をもてるようになってきたことが、「はい」「概ねはい」の微増につながったと分析する。

最後に、生徒の変容に、技術科教育が影響を与えたかについて図14を元に述べる。

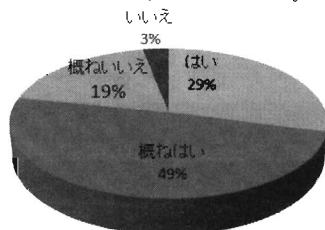


図14 質問「技術科の授業は、人間関係形成能力の伸長に影響を与えたか」の回答

図14の設問「技術科の授業は、人間関係形成能力の伸長に影響を与えたか」について、「はい」と「概ねはい」の合計が78%ある。

キャリア教育による能力の伸長が、様々なフィールドで、多様な人・もの・こと・情報によって伸長していくことを考えると、今回の実践による結果は、大きな成果であると言える。

8.3 成果と課題

これらの結果から、技術科教育においてグループ学習を取り入れることは、キャリア教育で育まれる能力である人間関係形成能力を、生徒に身に付けさせることができることが分かった。

生徒はコミュニケーションスキルを高めるとともに、自己理解・他者理解を深めることができた。多くの生徒がグループ学習を行ったことに対して、概ね授業内容と自己の成長において満足している結果が示された。

本研究では、人間関係形成能力に着目して授業実践を行った。その結果から、教科教育にキャリア教育を取り入れるための視点をもてば、生徒のキャリア教育に関わる能力を伸ばすことができることが分かった。

今まで技術科教育において、グループ形態における学習は行われていたが、グループ学習はあまり行われていなかった。週に1時間という制約があるため、効率よく授業を展開する必要性があり、一斉授

業を取り入れることが多くなるのが要因である。

また、実習における製作では、たいてい個人で1作品をつくる。グループ形態をとるものの、他者との積極的な関わりはあまりない。

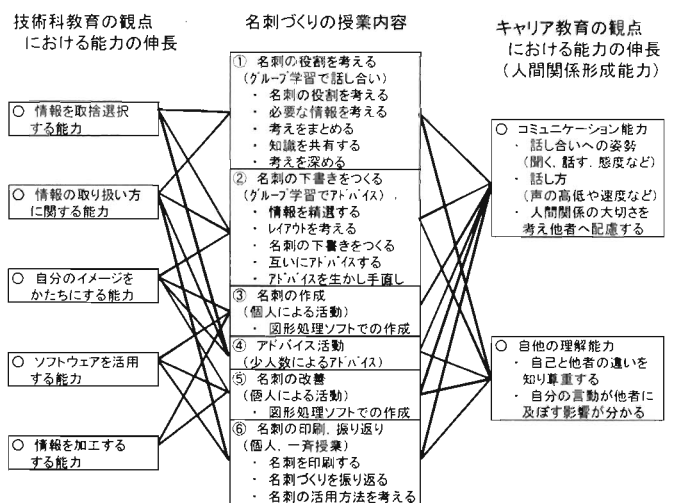
一斉学習や個別学習においても、人間関係形成能力は育まれるが、グループ学習を取り入れることは、その成長をより伸ばさせることができる有効な手立てとなると、今回の実践から分かった。

技術科教育とキャリア教育を結びつけるために行った実践内容の1つ（名刺づくり）を、表5にまとめた。技術科教育で身に付けさせる力を伸ばさせるとともに、キャリア教育で伸ばさせる能力を無理なく授業内に収めることができることが分かる。

今までの技術科教育を行うだけの授業ではなく、キャリア教育という付加価値をつけることで、生徒により質の高い授業を提供することができると言える。

今回は人間関係形成能力に焦点をあてて実践を行ったが、キャリア教育には他にも情報活用能力・将来設計能力・意思決定能力という3つの領域がある。今後、これらの能力についても検討を行っていきたいと考える。

表5 技術科教育とキャリア教育を結びつける実践例



参考文献・資料

- 学習指導要領等に関する資料
 - ・ 文部科学省：中学校学習指導要領（2008）
 - ・ 文部科学省：中学校学習指導要領解説 技術・家庭編（2008）
 - ・ 中央教育審議会答申：生きる力（2007）
- 教育問題等に関する資料
 - ・ 厚生労働省：平成20年版労働経済白書 労働経済の分析（2007）
 - ・ 厚生労働省：平成19年労働者健康状況調査結果の概要（2008）
 - ・ 東京学校臨床心理研究会運営委員：いじめの原因と背景（2003）
- キャリア教育についての文献
 - ・ 河崎智恵著：家庭におけるキャリア教育の開発に関する研究，風間書房（2004）
 - ・ 文部科学省：キャリア教育推進の手引（2007）
 - ・ 明石要一：キャリア教育がなぜ必要か，明治図書（2006）
 - ・ 三村隆男：新訂キャリア教育入門，実業之日本社（2004）
 - ・ 日本進路指導協会：新しい時代の生徒を育てる中学校キャリア教育，実業之日本社（2007）
- 技術科教育についての文献・資料
 - ・ 日本産業技術教育学会技術科教育分科会編集：技術科教育の研究，朝倉書店（1993）
 - ・ 日本産業技術教育学会技術教育分科会編集：新技術科教育総論（2009）
- その他
 - ・ 最新教育基本用語，小学館（2009）